

Ortiz Echagüe, José. Tomo 1 : España tipos y trajes. Tomo 2 : España pueblos y paisajes. Tomo 3 : España mistica. San Sebastián, Manuel Conde López, (1933 ? —1943) [194 ? —1943], 30.5×23.5cm <382, 36-O-1 ~ 3 >

Hiler p. 679

本書はスペインの写真家ホセ・オルティス・エチャグエの風俗写真集で全3巻から成っており、1930年代の約10年間の作品776点を収録している。20世紀前半のスペインの芸術において、オルティス・エチャグエの姓は、一組の兄弟の美学者として知られていた。画家のアントニオ (Antonio) と写真家のホセであった。アントニオの画布の色彩の輝きは、豪華で燃えるような激しさがある。それとは対照的に、ホセの写真は、地味な単色で、光と影の力強い彫像のような重みがあり、主題の形を構成する渋味は、その中に集中した生命力と自然の大地と民族の心を写し出している。彼は、画家のアントニオと血縁関係にあるのと同様に、同時代に活躍した若い文学者グループの思想家ウナムーノ、随筆家アソリン、詩人アントニオ・マチャド、ロペス・メスキータらの持つ画家の視覚、哲学者の奥行き、小説家の想像力、詩人の感覚をもって創造活動を行った。写真家として審美的創始者であり、絵のような村の風景や都市の老女の素朴な風俗は、調和のとれた優美さで身近な実生活を描写している。また、彼のこの一連の作品集には、オルテガ・イ・ガセトをはじめアソリン、エルレロ・ガルシアら8人が、序文・小論文を載せている。その内容は、石の文化の強じんさにはぐくまれ、数多くの侵入異民族やヨーロッパ文化の中心地からもたらされた文化的要素を自己の民族性に合わせて消化吸収しながら、地方の風土的、気質的特性を生かした多様性を維持し続けてきたスペインの独自性を地方別に説明している。①北スペイン：最もヨーロッパ的の地方で、今なおイベロ族の人種的、文化的伝統が風習の中に生きている。②カステリア：騎士道文化の薫りをとどめ、住民の気質にもそれがうかがえる。③地中海沿岸地方：冷静・強じんな性質のアラゴン人と活動的で独立心の強いカタルニア人が中心。④アンダルシア：情熱的で混血が入り交じったアラブ人の特徴をとどめている。⑤バレアル諸島：マヨルカ、メノルカなど16の島からなるカタルニア系の住民。このような地方的独自性は、スペイン社会にみられる最も大きな特色の一つである。それは、本書の第1巻、第2巻の作品に顕著に表われている。そして第3巻では、住民の99パーセントがカトリック教徒であるスペイン人の庶民の祈りや敬けんな描写を通して、宗教と生活の密接なつながりの中にその神秘性をさぐることができる。

なお第1巻の増補第10版が1957年、著者自身によって刊行されている。(内野)